ＥＳＤＧｓ通信　131号　手島です

大阪府熊取町議会でも、ＳＤＧｓ、ＥＳＤへの取り組みで盛り上がってました！

　皆様、お世話になっております。先日の台風１９号でも伊豆七島や千葉県などに

様々な被害を与えられてしまいました。海水温の上昇等、気候変動の影響もあるので

しょうね。ご関係の皆様にお見舞い申し上げます。

　さて、前回のＥＳＤＧｓ通信では、神奈川県厚木市議会でＥＳＤの推進や、市内全

小・中学校にＥＳＤカレンダーの活用が明示されたという話題をお伝えしましたが、

皆様からも驚きや応援の声が寄せられ、うれしく拝見しました。

　その関連から「議会」「ＥＳＤ」などのキーワードで検索してみると、全国各地で

様々な応答が展開されているようでした。中でも、大阪府泉南郡熊取町の2021年6月

議会では、ＥＳＤの推進について、議員さんも教育委員会さんも、町長さんまでもが

ＥＳＤの教育実践について、深いご理解と情熱をこめた話し合いを進められているの

で驚かされました。（6月議会の様子は、9月議会のデータがアップされるまで、以下

から公開されているようです）

[【浦川　佳浩議員 一般質問】令和3年6月熊取町議会定例会 - YouTube](https://www.youtube.com/watch?v=aoCjW3__gdY)

質問をされていた浦川議員さんは「令和3年度、熊取町の教育方針に持続可能な開

発のための教育ＥＳＤの推進が重要だと明示されましたが、小・中学校の経営方針に

はどのように位置づけられていますか」「2つの課題があるようです。環境や人権など

一つ一つの内容は理解できるが、その学びをつないでいくことや自分のこととしてし

ていくのが難しいようです。また、先生方ご自身もＥＳＤを総合的につなぎ、子ども

たちの学びにどのように火をつけていくのかが難しいようですが、いかがですか」

「ユネスコスクールへの加盟を目指すことも検討してはどうですか」などと、ご質問

を進めていらっしゃいました。

　それらを受けた教育委員会事務局の林理事さんもＥＳＤの定義を踏まえた上で「つ

なげて考える力、学んだことを活用し、友達とインプット、アウトプットすることを

通じて、話し合い・聞き合いの中にうれしさを感じたり、学んだことを使って現実の

世界の問題を自分のこととして捉え、どのように解決したりするのかということが大

切です。また、先生方の頭の中で授業や総合的な学習の時間の学び同士がつながるこ

とも大事であり、カリキュラム・マネジマネジメントがポイントになりそうです。」

などと、真摯な応答が繰り広げられていました。

　また、ＥＳＤカレンダーの活用についての質問に対しても、林理事さんは、学習指

導要領総則を踏まえてカリキュラム・マネジメントの意味を明確に説明した上で、

「ＥＳＤカレンダーは、教科領域のつながりが見えるように単元配列表、または重点

単元指導計画として作成、活用されます。」とその役割を示されていました。

　驚いたことに、浦川議員さんはご質問の中で、「ＥＳＤについて文部科学省の資料

などを調べていくと、八名川小学校の名前が出てきます。そしてある一人の元校長の

名前が出てきます。と、手島の名前や、『学校発・ＥＳＤの学び』の本を示しながら、

この本を取り寄せて読んだことで私自身にも【火がついた】。そういう学校で育つ子

供は世界に対する意識が育つように思うのです。ですから一日も早く取り組みを取り

入れてほしいのです。」と語ってくださいました。（と、・・・私には聞こえました。）

　更に、これらの話を受けた藤原町長さんご自身も、「議論を聞く中でＥＳＤについ

て、一度チャレンジしなくてはいけないなという思いが募ってきました。全ては子ど

もたちの幸せと町の未来に向けて、質の高い教育の実現に向けて鋭意進めていく必要

があろうかと思います。私たちの豊かな生活は20年、40年先まで続けていけるかわ

からないと思うが、そこから考えて、今、我々が何をしたらいいのか考えていくのが

重要です。このような子どもたちの教育、大賛成です。勇気を奮って進めていただき

たい。」と話されました。

　正にバックキャスティングの思考から今後の教育のあり方を考え、教育改革への道

筋を示されていらっしゃることに、強いリーダーシップを感じました。

　私自身は、熊取町にも浦川議員さんにも、ましてや町長さんにも直接の接点はあり

ませんでした。しかし、私も気づかないうちに、様々なところで八名川小学校のＥＳ

ＤやＥＳＤカレンダーの重要性が語られ、未来に向けた教育のありかたが求められて

いることに胸を熱くいたしました。

　このような至福の時には、2005年以来出会ってきた様々な顔や日々が思い出される

のです。「校長先生、こんなものを作ってみたんですが、校内研究の時に紹介しても

いいでしょうか。」と、遠慮がちにＥＳＤカレンダーの試案を差し出した石田好広先

生の顔（いつの間にか目白大学の教授になられていましたね）。愉しいアイデアがあ

ふれ、子どもたちが身を乗り出す研究授業の数々（もちろん失敗だってありましたし、

そこから学ぶことにも大きな価値がありました。）研究会の後、お台場の大江戸温泉

につかりながら次の授業構想を語りだし、原点に還って考え直し始めた仲間たちのま

じめな顔。東雲小学校での５年の日々に続く八名川小学校での奇跡的な８年間とそれ

を一緒に創った先生方や職員のみなさんの笑顔やその裏に込められた情熱。ＰＴＡや

八名川ファミリー、町会による穏かで力強い支援などなど。

　それらの中で培われた成果が一人歩きを始め、今でも国内やあるいは海外のどこか

で教育を活性化させているとしたら、これ以上に幸せなことはありません。

　ただ、皆々様のお力が結集されて学習指導要領にＥＳＤの理念が示されたとしても、

あるいは議会でＥＳＤ推進の決議がされたとしても、実際に学校の中にＥＳＤを根付

かせ、実践の形として積み上げ、市や町の子どもの姿を変えていくには、それに関わ

る一人一人の教育改革への思いの深さや、教育観・指導観の転換やご努力が必要です。

そう考えると、言葉でいう程には簡単ではありません。心に響く研修や、実践を通じ

た研究の蓄積が求められます。

未来に向かって教育の革新・改革に踏み出そうという学校や自治体に対しては、何

らかの形で具体的で実践的な応援をしたいものです。その思いは、私だけでなくＥＳ

Ｄ推進者の皆さん誰もが強く感じていることです。

現実には、私以上にＥＳＤの理論に優れた方も大勢いらっしゃいますし、ＩＣＴを

活かしたＥＳＤを進めている方もいらっしゃいます。ＥＳＤの全体を語る方もいれば、

専門分野で優れた方もいらっしゃるのです。また、政府のＥＳＤ円卓会議もあります

し、日本ＥＳＤ学会もあります。全国各地にＥＳＤ支援センターもありますし、日本

持続発展教育推進フォーラムも、ＥＳＤ－Ｊもあります。ユネスコアジア文化センタ

ーもユネスコ協会連盟もユニセフもＪＩＣＡも頑張っています。優れた活動を展開す

るＮＰＯ等の組織、関係機関も書ききれないほどあります。学校教育におけるＥＳＤ

の推進拠点とされているユネスコスクールのネットワークもありますし、それを支え

る大学間ネットワークもあります。地域の人材や教育資源を活用すると同時に、これ

らの機関とも、あるいは企業の方々とも、学びづくりや研修等々を通して上手につな

がり、それらのもつ多様な力を遠慮なく活かして未来を創る教育を進めてほしいもの

です。そうしないと現実の世界から大きく取り残され、未来を失った日本であり続け

ることになりそうです。

　学習指導要領前文には「よりよい学校教育を通してよりよい社会を創るという理念

を学校と社会が共有し、それぞれの学校において、必要な学習内容をどのように学び、

どのような資質・能力を身に付けられるようにするのかを教育課程において明確にし

ながら、社会との連携及び協働によりその実現を図っていくという、社会に開かれた

教育課程の実現が重要となる」と示されています。地域や関係機関との連携を上手に

図りながら、全国各地に広がる１７２４全ての市町村で、そして各学校で、ＥＳＤの

推進を図っていただきたいものだと願っております。

今回もお読みいただき、ありがとうございました。

ご指導、ご助言等いただける際には、こちらまでお願いいたします。

**「ＥＳＤ・ＳＤＧｓ推進研究室」　手島利夫**

URL=https://www.esd-tejima.com/

　　 　　　　　　事務所：〒130-0025　東京都墨田区千歳１－５－１０

　　　　　　　　 ☏＝ 03-3633-1639　 090-9399-0891

　　　 Ｍａｉｌ＝contact@esdtejima.com

